



検査情報月報9月号 ▶ 概要版



衛生研究所のInstagram
フォローをお願いします！

▶ 横浜市衛生研究所では、所内で実施した試験検査などの結果に解説を加えて、検査情報月報を発行しています。

2025年9月発行

劇症型溶血性レンサ球菌感染症検査結果(2024年)

▶ この感染症は、溶血性を示すA群等のレンサ球菌によって引き起こされます。基礎疾患の有無に関わらず、突然の四肢の疼痛、腫脹、発熱などで発症し、その後急激に症状が進行して、ショック状態から死亡することが多い感染症です。

主な結果 ▶ 市内医療機関から保健所へ届出があった42事例から分離された菌株43株が搬入されました。

▶ **A群は23事例、B群は7事例、C群は1事例、G群は11事例**でした。A群は70代以下で多い傾向にあったのに対し、G群は80代以上の高齢者が多くを占めていました。また、B群は小児と高齢者に多い傾向でした。

急性呼吸器感染症(ARI)に関する検査状況(2025年4月～8月)

▶ 2025年4月7日から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)が感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点サーベイランスの対象となりました。2025年4月から8月までにARIサーベイランスの一環として、横浜市内のARI病原体定点(9医療機関)から検体が提出され、横浜市衛生研究所で検査を実施した検体の病原体検出状況をまとめました。

主な結果 ▶ ARI サーベイランス病原体定点ウイルス調査(2025年第15週～2025年第34週)では571件を検査し、インフルエンザウイルス15件(2.6%)、新型コロナウイルス78件(13.7%)、RSウイルス24件(4.2%)、パラインフルエンザウイルス112件(19.6%)、ヒトメタニューモウイルス16件(2.8%)、アデノウイルス29件(5.1%)、ライノウイルス/エンテロウイルス121件(21.2%)の計395件(69.2%)が分離・検出されました。

▶ ARI 検体のウイルス陽性率では、調査開始時から新型コロナウイルスは毎週検出され、**第30週には陽性率50%を超えました**。一方で、4月以降インフルエンザウイルスの陽性率は減少し、**7月以降はRSウイルスの陽性率が増加傾向**になりました。

海水浴場水質調査結果(令和7年度)

▶ 金沢区の「海の公園」海水浴場において、5月及び7月に環境省からの通知に基づく水質調査を行いました。水浴場水質判定基準によって「適(水質AA、水質A)」、「可(水質B、水質C)」、「不適」の5段階に区分しました。

主な結果 ▶ 水質判定区分は、5月は「可(水質C)」、7月は「可(水質B)」でした。

▶ 油膜の有無、ふん便性大腸菌群数については5月及び7月ともに「適(水質A)」の基準を満たしていました。5月14日午後に透明度が0.5未満、CODが16～31mg/Lで、判定区分「不適」の結果となりましたが、5月19日に再度検査を行ったところ、透明度、CODともに水質の改善が見られました。今年は5月に比べ7月の方が透明度、COD、ふん便性大腸菌群数の結果が良く、昨年と比べ判定区分も「可(水質C)」から「可(水質B)」に改善しました。